



つなごう未来へ！島原半島世界ジオパーク

島原半島世界ジオパークを 楽しむために



島原半島世界ジオパーク
キャラクター「ジオくん」



島原半島世界ジオパーク
キャラクター「ジオなちゃん」

島原半島ジオパーク推進連絡協議会 島原市平成町1-1 雲仙岳災害記念館内

☎0957(65)5540 FAX 0957(65)5542 E-mail: info@unzen-geopark.jp

今月は、「ジオパーク」という仕組みがどんなものなのかをおさらいしてみましょう。

ジオパークは、2001年にユネスコが世界各国のジオパーク推進活動の支援を決定したことが大きな始まりです。

2004年に現在の世界ジオパークネットワーク（GGN）が設立されました。GGNは各国から申請されたジオパークを認定しています。

ジオパークと世界遺産条約



世界遺産条約は、1972年に始まった取り組みで、正式には「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」といいます。この条約に調印した国とその地域には、登録された遺産を保護するために、厳しい制約が与えられます。しかし、遺産の保護に掛かる負担が、地域の財政を圧迫する、という事例が生じ始めました。世界遺産条約は、対象のものを「守る」ことに特化した仕組みではありましたが、それをどうやって持続させていくかについては、きちんと検討していなかったのです。その不備を補い、人類にとって大事なものを守りつつ、それをうまく活用して地域を活性化させ、持続的に発展させていく、という仕組みがジオパークです。

ジオパークは、貴重な遺産の保護・保全と地域の経済発展を両立させ「地域社会の持続可能な発展」を目指す仕組みのことです。将来も地域経済が発展することが求められますので、地域住民が一緒になってジオパークの活動に積極的にかかわることが求められます。



平成21年8月GGN現地調査の様子

ジオパークがやらなければならないこと

貴重な大地の遺産があるだけでは、ジオパークにはなりません。前提として、大地の遺産が保護されていない必要ありません。その上で、それらを持続可能な方法で、教育や観光に活用し、地域経済を発展させていく必要があります。世界遺産条約と異なり、ジオパークの場合は、大地の遺産の保護保全や、それらを活用した地域振興については、その地域独自の方法をとることが許されます。しかし、その手法で本当に遺産が保全され、かつ活用されているかについては、定期的なチェックが求められます。

そのため、ジオパークには、4年ごとの再認定審査が義務付けられています。島原半島ジオパークでは、GGNから派遣された審査員による再審査が今年の夏ごろ行われる予定です。もし、再審査で審査員からレッドカードを突きつけられたら、その時点で島原半島は世界ジオパークではなくなってしまうのです。

世界認定は剥奪される？

実際に世界認定が剥奪されてしまったジオパークはあるのでしょうか。イギリスのロッチャーバージオパークは、ジオパークを運営するスタッフを確保する予算がなく、ジオパークとしての持続的な活動が維持できないと判断されたために、世界ジオパークの認定が剥奪されました。この他にも、イランやオーストラリアなどにあった世界ジオパークも剥奪されています。

認定を勝ち取ることで、その質を維持し、向上させていくことが重視されているのです。

学木交で出てくる給食の野菜を全部食べられるようにがんばります。

テーマ「新学期でがんばること！」 南島原市立 森小学校 6年 名取 理由知

復興への



Vol.11

東日本大震災災害派遣レポート

南島原市災害派遣職員 林 田 昭 義

今月は2月14日に開催された「国土政策フォーラム in 南三陸町」について報告します。

国土政策フォーラムとは、国土形成の基礎となる「国土形成計画」の推進を目的として、平成19年度より国土交通省と地方自治体の共催で全国各地にて開催され



意見を発表する藤原市長

ています。今年度は東日本大震災の被災地である岩手県、福島県、宮城県南三陸町の3カ所で開催されました。基調講演では東京大学地震研究所大木聖子助教が「地域で進める防災・減災対策」防災教育の展開」をテーマに、災害が起こった際に命を落とさないため、子供たちが自ら身を守る行動を作法の様に身に付けていくこと、普段からの備えと訓練が大事と話しました。また、講演後に行われた討論会は、大木聖子助教、宮城大学副学長、宮城県土木次長、南三陸町佐藤町長、そして南島原市から藤原市長

長が5人で「これからの減災対策と合わせた新たなまちづくり」をテーマに行われました。藤原市長は、雲仙普賢岳噴火災害や大野木場小学校での防災教育、ジオパークへの取り組みなど、復興までの歩みについて話しました。佐藤町長からは南三陸町が目指す「どの様な津波に襲われた場合でも命を守るため、住まいは高台に」という考えのもと、居住地は高台に整備する新しいまちづくりについて話しました。フォーラム終了後に回収したアンケートでは「復興が今まで見えなかったが、大変な復興事業が進められていたことが分かった」や「南三陸町のまちづくりの考え方が良く分かった」などの意見が寄せられ、復興に向けた取り組みである、命を守る安全・安心な新しいまちづくり「南三陸モデル」を全国に向け発信することが出来ました。

3万7千個の追悼キャンドルが 原城一揆まつり

日時 4月13日(土)

会場 原城本丸および周辺

昼の部 12:00~17:00



- ◆ オープニング
- ◆ ゴスペルクワイヤ GLORY & FAITH
- ◆ 南有馬中学校生徒による「落城の賦」

- ◆ 南有馬小学校生徒による「南小そーらん」
- ◆ ジブシーダンススクール HIP・HOPダンス
- ◆ ジャグリング SATOYA パフォーマンス
- ◆ 歌謡ステージ 門口 公将
- ◆ 南有馬中学校吹奏楽部演奏
- ◆ 歌謡ショー 福富 莉架

夜の部 19:00~21:00



- ◆ 市民による追悼行列
- ◆ 追悼祭
- ◆ キャンドルコンテスト表彰式
- ◆ 夜なべ談義



世界遺産登録推進啓発事業

一揆軍が原城籠城中に食べたと言われている具雑煮。大鍋による「原城具雑煮」の1,000食分無料配布を実施。正午から整理券を配布。そのほか、歴史観光ガイドが原城跡、日野江城跡、原城文化センターをガイドします。

主催/原城一揆まつり実行委員会 後援/南島原市
お問い合わせ/原城一揆まつり事務局 ☎090(7167)3715 企画振興課 ☎050(3381)5030

